JICA 教師海外研修 授業実践報告書

Zambia

学校名：長野県上田高等学校

氏名： 小林 まゆ子

［担当教科： 情報］

- 実践教科等： グローバルスタディⅠ
- 時間数 ： 2 時間
- 対象生徒 ： 高校 2 年生
- 対象人数 ： 40 人

1 単元名

SDGs の視点から持続可能な課題解決を考える。

2 単元の目標

ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度（国立教育政策研究所が例として示したもの）

・世界の課題を自分のこととして捉え、解決しようとする態度を養う。（未来像を予測して計画を立てる力）

・今までの活動や課題研究を、実際に国際協力に活かすためにどうすれば良いのか、仲間と協力し考える。（他者と協力する態度）

・常に SDGs の目線を意識し、目標達成に向けた行動ができるよう意識付ける。（多面的、総合的に考える力）

3 資質・能力育成に向けた授業づくりの視点（国立教育政策研究所・2014）

1 意味のある問いや課題で学びの文脈を造る
2 子供の多様な考えを引き出す
3 考えを深めるために対話のある活動を導入する
4 考えるための教材を見極めて提供する
5 すべ・手立ては活動に埋め込むなど工夫する
6 子供が学び方を振り返り自覚する機会を提供する
7 互いの考えを認め合い学び合う文化を創る

4 単元の指導について

（1）教材観

SGHに指定されている本校の研究開発構想である、「長寿県 NAGANO から世界のいのち・健康を支えるグローバルリーダーの育成」に向けて生徒が取り組んできた自己の課題研究をどのように実現できるかを考えるきっかけを作る。今までは課題研究の対象は様々であったが、今回はザンビアという国にフォーカスし、現状を知ったうえで協力して解決策を探る。また、今回は首都圏で企業や大学の研修を終えた事後学習として、日本の技術や考え方を途上国で活用することを具体的に考えさせ、日本との繋がりも意識させる。

本単元を通して、今後ザンビアだけでなく、他の国や地域での同じような課題、またその地域特有の課題への具体的な支援の方法や、より良い支援の在り方について考えさせる。

（2）児童生徒観

1 年次よりJICAの授業やプログラムに参加している生徒たちであるため、国際協力の重要性を理解できている。国内外の諸問題に対しての意識が高く、ザンビアという国についても、遠い外国の問題だから自分たちには関係ないという生徒はほとんどいない。 また、何事にも意欲的に取り組む生徒が多く、生徒同士で活発に意見交換をすることができる。常々授業でSDGsについて取り上げているので、SDGsの視点から問題にアプローチする姿勢が出来つつある。

（3）指導観

似たような興味を持ったグループごとに話し合わせ、個人の考えを深めるとともに、共同で取り組むことで、個人では考えられなかったより良い方法を考えられることを実感させる。今回の単元では、いくつかのことを繋げて考察させることがあり難しい作業であるが、グループで協力することで、他者と協力することの大切さや楽しさを学ぶ。また、生徒には将来、大学や企業において、社会に目を向けて課題を見出し、生徒自身で考えた上で、他者と関わり、解決にむけて行動していくリーダーとなっていって欲しい。そのための視点や手法を学び、キャリアに繋げていけるようにしたい。

5 評価規準

観点	共同学習への関心・意欲・態度	表現力	学びやものの考え方	社会的事象に関する知識・理解
評価規準	グループで協力して課題を解決しようとする。 相手の意見を取り入れてよりよい方法を考えようとする。	相手に伝わりやすい表現方法を考えながらプレゼンテーションソフトを使ってスライドを作ることができる。	いくつかの視点を統合して考えをまとめようとする。	今までの研修や授業を正しく理解し、ザンビアの課題に対してアプローチしようとする。
評価方法	グループ学習の様子	スライドの内容 発表の様子	グループ学習の様子 スライドの内容	グループ学習の様子 スライドの内容

6 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	首都圏フィールドワーク事前学習	各自の研修先について調べ、研修でどんなことを学ぶかを理解する。	・各自で研修先の大学や企業や研究内容を調べる。 ・プレゼンテーションソフトでまとめる。 ・各コースごとスライドを発表し合い、シェアして学びを深める。
2、3	首都圏フィールドワーク事後学習～SDGsって何？～	SDGsの視点から研修先を振り返る。	・研修で学んだことをコースごとまとめる。 ・SDGsを紹介し、それぞれの研修で学んだ分野がSDGsの17の視点のどれかに当てはまることに気付かせる。
4	ザンビアへの持続可能な支援を考える～SDGsの視点から	持続可能という視点からザンビアの課題解決を考える。	・生徒の課題研究の発表により、ザンビアの可能性と課題を理解する。 ・私のザンビア研修の写真から、ザンビアの課題を理解する。 ・課題がSDGsの 17 の目標のどれに当てはまるのか考える。 ・一方的な支援とならないために、企業の目線に立って、自分たちにも利益がでる、実現可能で自足可能な方策を考える。 ・研修先で学んだことからアプローチを考えることによって、生徒自身の将来の方向性を具体化する。
5	各コース発表	コースごとの発表を聞き、研修をまとめる。	・まとめたものをコースごとに発表する。 ・それぞれの発表に対して評価をする。

7 授業事例の紹介

小単元名【ザンビアへの持続可能な支援を考える～SDGsの視点から】

（1） 指導案

（ア）実施日時 10 月 25 日（水）第 5 限

（イ）実施会場 視聴覚教室

（ウ）本時の目標

・現在行っている課題研究や研修をSDGsの視点から捉えなおし、課題解決の方法を探る。

（エ）指導のポイント

・ザンビアへの持続可能な支援について具体的に考えることによって、SDGsの 17 の目標を達成するための具体的な行動や国際協力が、生徒自身のキャリアに繋がることを実感させる。

（オ）本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価（評価規準・評価方法）
導入	SDGsを企業戦略として取り入れている企業の紹介【4】	SDGsの17のゴールのどこにあたるのかを考える。	一斉	・持続可能な開発目標の達成のためには、一方的な支援ではなくビジネスとしてSDGsを取り入れることで双方向の支援になることを意識付ける。	
	アフリカの課題研究を行っている生徒にプレゼンをしてもらう。（右の写真参照）【7】	今までの課題研究でアフリカの可能性と教育の問題についての学習をしてきた生徒に、アフリカの現状や課題解決のための糸口についてプレゼンさせる。 	一斉	・生徒のプレゼンでは教育を改善することでアフリカがより成長するという結論になっていることを抑える。	・発表した生徒の考えを理解し、協力して解決しようとする。（参加態度）
	ザンビアにおける教育の問題点を紹介する。【4】	ザンビアの教育、学校の施設や教材についての現状を知る。 	一斉		・課題について正しく理解する。（参加態度）
	問題点に対して、企業の立場からアプローチする方法を探り、チームでまとめる。【1】【2】【3】【7】	・首都圏に研修にいったコースごとに分かれて、紹介した問題点を1つ選び、解決策を考える。 ・SDGsのどの目標にあたるのかを考える。 ・自分たちが実際に行った研修先の企業や大学で学んだことを元に、ビジネスとして課題を解決できるようなアプローチを考えてまとめる。	班	・SDGsでは教育に関連したゴールは「4」にあたるが、ザンビアの教育を改善するためにはそれ以外にも達成しなければいけないゴールがあることに気付かせる。	・グループで協力して課題を解決しようとする(参加態度) ・いくつかの視点を統合しようとする(プレゼンテーション)

	コースごとに発表する 【6】【7】	・まとめたスライドを使って発表する。 	一斉	・日本の企業や大学の研究が役に立つことを気付かせる。日本の発展のためにしている仕事や研究でも、目線を変えるとザンビアのような途上国でも有効な手段であることに。	
	まとめ 【6】	・授業のまとめ		・それぞれのチームが考えたものを聞いて気付いたことがないか。 ・今後必ず働くようになるが、そのときSDGsを意識してもらいたいということ。また、その点から企業戦略をたてるといいことを感じてもらう。 ・自己の課題研究においても、持続可能なものになるよう、常に考えてもらうきっかけにする。	

（2）授業の振り返り

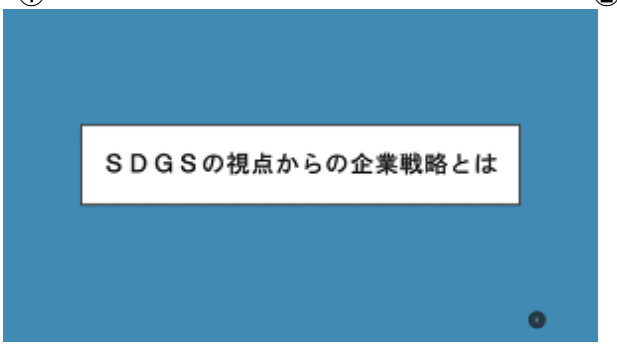
ちょうどアフリカの教育について個人研究を行っている生徒がいたため、その生徒に発表をしてもらうところから入ったことや、普段から世界の問題や SDGsについて扱っているために、ザンビアと聞いても「自分とは関係ない遠い国だ」と感じる生徒が少なかったことで、ザンビアでの課題解決に関心をもたせることができた。また、ちょうど企業や大学の研修に行ったあとだったので、ビジネス的な要素を持たせたこともよかったのではないかと感じた。

もっと他の研修先のことやザンビアの課題を知りたいという生徒がいたので、今後もう少し時間をかけて紹介できたらよいか。また、この授業の中では JICA の活動について触れることが無かったが、持続可能な支援という点において、JICA の支援は素晴らしいものであるから、考察の参考のためにいくつかの事例を提示できればよかった。

（3）使用教材

現地で撮影した写真をもとにスライドを作成＜一部抜粋＞

①



②

③

④

（4）参考資料等

・味の素グループ 「サステナビリティ データブック 2016」
（https://www.ajinomoto.com/jp/activity/csr/pdf/2016/ajinomoto_csr16.pdf）

- SARAYA 「持続可能性レポート」
- （http://www.saraya.com/csr/report/images/report2016.pdf）
- SDG Industry Matrix
- mundi 2017 年 9 月号

8 単元を通した児童生徒の反応/変化

- 今まで大学や企業において様々な研修を行ってきたが、その活動と SDGs を結び付けることが無かった。今回、大学や企業の活動が SDGs の 17 のゴールのどこに当てはまるのか考えることで、どんなところでも SDGs 達成のヒントがあると気づいた。
- 持続可能な支援のためには、自国と相手国と対等な立場でいることが大切であり、企業では、現地の人を雇ったり、自社の製品を使ってもらうなどして、働くことが支援につながると感じられた。
- 調べてみると、すでに企業方針に SDGs を取り入れている企業が多くあったことに驚いていた。
- 途上国への援助は、一方的に与えるだけという考えを持っている生徒は、今までも課題解決に対して消極的だったが、SDGs の目線から企業の経営戦略を立てることがビジネスチャンスのキーワードになっていることが分かり、自分の将来と直結していると気づき、考えを深めようという姿勢に変わってきた。

以下、生徒の考えた持続~~自足~~可能なプロジェクト

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

派遣前の研修では、派遣国についての理解を深めることはもちろん、新学習指導要領から、授業の手法まで、自分の教員としてのスキルアップができるような内容であった。国際理解教育やJICAについては曖昧だった部分を確かな知識にすることができた。
海外派遣にあたっては、自分や生徒がザンビアで知りたい事をまとめていたが、どの場所でも知りたかったこと以上の情報を得ることができ、まとめるのに非常に苦労した。
派遣後研修で、また授業の目的を再確認し、授業にしたいものを絞り込んで計画をすすめることができた。

本単元におけるPDCAサイクル
＜PLAN＞
・ SDGs についての理解度を高めるよう、自分の課題研究や研修と SDGs との関係について考えた。
＜DO＞
・ 持続可能な支援になるように具体的に考えさせた。
・ 生徒同士でコミュニケーションをとったり、発表し合い、お互いの意見を深めた。
＜CHECK/ACTION＞
・ 今後の課題研究の中で、持続可能な支援であるかどうか、常に考えながら進めるような声掛けをする。
・ 自分だけの考えに固執せず、他人の意見を聞き、よりよいものにしていこうとする態度を養う。

10 教師海外研修に参加して

現在の勤務校では、海外へ研修に行った生徒たちが、グローバルな課題について全校や外部に向けて発信する機会がたくさんある。それを見ていて、現地で本物を感じること・知ることは、国際理解教育をする上で一番武器になるものだと感じていた。

ザンビアに行くにあたり、生徒に国のイメージや見てきてほしいものをアンケートで聞いてみると、知っていることがほとんどないことが分かったが、実は私も同じような状態であることも同時に気付かされた。派遣前研修で少し理解した気になっていたが、現地を訪問して、その理解がとても浅はかなものであったと知ることになる。

現地では、どこに行っても刺激を受けた。JICA や企業の活動は、想像以上に丁寧に考えて行われていた。計画の段階から何年もかかっているものも多くあった。常に「持続可能な支援」を念頭に置いていることが分かり、日本人の素晴らしさを改めて感じ、誇らしく思った。

そんな中で、研修させていただいた学校の先生が「Education is No.1」と言っていたこと、また、national science center の所長のバンダさんも、国を変えるためにはまず教育からという思いであることを知った。私は、どのような思いで教育に取り組んでいるのか。もう一度自分を見つめなおさなければいけないと痛感した。また、それ以外のところでも、ザンビアの人たちはただ受け身でいるだけではなく、自分たちでも何とかしなくてはという姿勢で取り組んでいた。日本の支援が素晴らしいだけではなく、お互いが協力しているからこそ、結果に繋がっている。国際理解教育を行うにあたり、こんなことは分かっていたつもりだった。でも、ザンビア側の思いを生で感じることで、本当の支援について少しでも理解することができたと思う。

ザンビアで学んだことがたくさんありすぎて、この短期間では全て生徒に伝えることはできていない。今後もこの経験を継続して発信していく場を積極的に見つけていきたい。そして、この研修で関わった方の生き方を見て考えたことを大切にし、自分の行動で示していこうと思う。